

柔道の発展とその背景 Development of judo and its background

1K09B003 氏名 赤迫 健太

指導教員 主査 小野沢 弘史 先生 副査 太田 章 先生

【はじめに】

私は 17 年という長いあいだ柔道を続けてきた。現時点における自分の人生そのものと言っても過言ではない。

嘉納治五郎が柔術から柔道を作り出してから約 130 年、様々な歴史を経て柔道は今や世界中で親しまれる競技となった。柔道はもはや日本だけのものではない。世界中に広まり、工夫を加え今の柔道がある。柔道の国際化の歴史は柔道の変化の歴史である。

柔道が変化してきたということを踏まえた上で、この論文内では柔道の変化について順を追って見ていくと共に、それらにどういった意図、あるいは背景があったのかについて考察する。また、それらの考察を踏まえた上で一競技者としての観点から現代の柔道、ひいては柔道のこれからについて、一競技者の観点から見解を述べる。

【第一章 柔術との関係】

柔道は嘉納治五郎によって柔術をベースに作られた競技である。柔術と柔道の違いは何かについてまとめ、考察すると同時に柔術と柔道の歴史的な関係性についても言及していく。

柔道は柔術と違いスポーツである。大まかに言ってしまえば、柔道には柔術に見られるような「相手を破壊すること」を禁止している。すなわち当て身、一部を除いた関節技の存在である。それらを排除したことが柔道と柔術の間もっとも大きな差異であろう。また、精神的な理念を武術の場に持ち込んだというのも大きな特徴である。ここに「術」と「道」の違いがある。

これらのような差異を中心に、柔道と柔術がどのような関係にあったのかについてまとめる。

【第二章 柔道とはなにか】

前章で述べた柔術と柔道の関係を元に、柔道という競技に対する基礎知識をまとめ、第三章以降の考察の下地とすべくこの章を設置した。

柔道は嘉納治五郎によって作り出された、柔術をベースとした競技である。柔道が何を目指して柔術から作られたのか、柔道が目標としている物は何なのか。それについてまとめた上で、柔道の歴史や文化的価値など、基本的な内容を整理することを目的とする。

【第三章 柔道の国際化】

東京オリンピックにおいて正式種目となってから柔道は世界中に広がり、今や、オリンピックのみならず世界中で人気のある一大競技となっている。柔道が国際競技となるまでにはどのような背景があったのか。国際柔道連盟が設立されるまでに多くの日本人が尽力してきた、その歴史について見ていきたい。

また、世界的な競技となった柔道には新たに国際規定が設けられた。現在は国内でも主流になっているこのルールが従来の国内ルール(講道館審判規定)とどう違ったのか、それについてまとめる。

【第四章 現在の柔道】

日本国内での現在の柔道情勢についてと世界における日本の立ち位置について論ずる。

日本国内の柔道人気は海外、例えばフランスなどに比べて下火である。その理由として、世界的な競技である「JUDO」と日本人の思う「柔道」の間に隔たりがあるせいではないかと考えた。第三章でも触れた、最近特に改正の多い国際審判規定についても言及しながらこの問題について考察していきたいと思う。

また、ロンドン五輪では柔道男子は一つも金メダルを獲得できなかった。これは世界的な柔道のレベルが上がっていると同時に、日本人にとって不利なルールが横行しているせいではないかと一競技者として考える。国際柔道審判規定の変化についてまとめると共に、それが日本の柔道にどのような影響を与えているかを示す。

【結びに】

ロンドン五輪を見ればわかる通り、日本における柔道は低迷している。世界に広がった柔道は、今や日本のお家芸ではなくなっただと言ってもよい。そんな中でこれからの柔道はどうなっていくのか、また、どのような取り組みをすべきなのかについて自分なりの見解を述べる。

また、それらを総合して、我々は柔道とどのように向き合っているのかねばならないのか。柔道という特殊なスポーツの長所について違った角度から考察していきたいと思う。